

## 2021 年度第 2 回町田市食育推進計画策定及び推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進計画策定及び推進委員会	
事務局（担当課）	保健所 保健予防課	
開催日時	2022年2月21日（月） 13:30～15:30	
開催場所	オンライン及び会場開催（町田市保健所中町庁舎）	
議題	1 開 会 2 報 告 （1）町田市食育推進キャラクターの作成について （2）第2次町田市食育推進計画進捗管理シートについて （3）食育推進に関する市民アンケート調査について 3 議 事 コロナ禍における食育推進について 4 事務連絡 5 閉 会	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	饗場 直美 （学識経験者） 湯目 英人 （町田市私立幼稚園協会） 貝原 俊明 （町田市公立小学校校長会） 矢島 加都美 （町田市公立中学校校長会） 植波 千晶 （市内小学校栄養教諭） 小口 悦子 （市内大学教員） 松井 大輔 （町田商工会議所） 村上 律子 （町田地域活動栄養士会） 坂本 愛 （町田市観光コンベンション協会） 堤 康恵 （町田市公立小学校 PTA 連絡協議会） 小川 聖子 （町田市立中学校 PTA 連合会）
	事務局	保健予防課
欠席者	委員	五十子 桂祐 （町田市医師会） 亀山 光春 （東京都町田市歯科医師会） 千葉 勢子 （町田市法人立保育園協会） 富田 一女 （市内高等学校教諭） 新倉 敏和 （町田市農業協同組合） 井上 孝男 （市内農業生産者） 福田 猛夫 （東京都町田食品衛生協会） 吉永 みずほ （町田集団給食研究会）

配付資料	資料1 町田市食育推進キャラクターの作成について 資料2 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート（2021年度） 資料3 庁内各課における食育推進事業について 資料4 まちだ食育カレンダー、SNS「まちだ食のわ」について 第2次町田市食育推進計画
------	---

## 検 討 経 過

### 1 開 会

### 2 報 告

#### (1) 町田市食育推進キャラクターの作成について【資料1】

**事務局：**動画等、デジタル化に対応した食育推進のため、新たなキャラクター作成を行っている。キャラクターのイラストが完成したため、報告する。イラストは委員長所属の神奈川工科大学の学生が作成した。神奈川工科大学の皆様には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。イラストは今後、食育に関する広報物やSNSへの掲載等で使用していきたいと考えている。

キャラクターは町田産農作物をモチーフに6種類（なす、きゅうり、卵、トマト、米、牛乳・牛）を作成していただいた。

**委員長：**キャラクターは動画として、動くことが可能なように作成している。色々なポーズがあるため、ぜひ活用してほしい。

#### (2) 第2次町田市食育推進計画進捗管理シートについて【資料2】

**事務局：**計画に基づく食育推進状況を進捗管理するため、毎年シートにまとめている。委員会終了後、2021年度分の作成依頼を行う。

#### (3) 食育推進に関する市民アンケートについて

**事務局：**第2次町田市食育推進計画は2019年度から2023年度の5か年計画で実施している。2024年度には第3次計画の策定を控えている。それに伴い2022年度夏から秋にかけて、第2次計画の評価と第3次計画に向けた市民アンケートを実施予定である。

### 3 議 事 コロナ禍における食育推進について

**委員長：**今年度も今に至るまで感染症の影響を受け、食育が難しい場面があったかと思う。今年度の食育実施状況を委員で共有し、これからの食育推進に活かしていきたい。

**委員：**昼食時は黙食で、家庭科の調理実習は実施できていない。

昨年度から始まった、朝食レシピコンテストを今年度も実施した。昨年度の最優秀賞はテレビや広報に取り上げられたり、給食のメニューになったりしたため、子どもたちは今回

も意欲をもって取り組めた。今年度は小学校でも同取組を行った。中学校は昨年度より参加人数が増え、賞を決めるのが大変なくらい素晴らしいものばかりだったので、今後も良いものが出てくると思う。家族も在宅時間が多くなっており、家族からアイデアを出すなど、親子の時間を持つことができたという意見があった。

**委員：**小学校におけるレシピコンテストは今年度から実施した。コンテストへの参加は任意で、本校はタイミングが合わず実施できなかった。小学校職員におけるコンテストの知名度があまり高くないので、来年度はどの小学校でも実施できるように取り組みを強化していきたい。

市内小学校はすべて自校式給食であり、町田市食育推進計画に基づき、まち☆ベジ給食を年2回行っている。子どもたちにまち☆ベジ給食を知ってもらうため、小学校で研究会を行い、子どもたちへのアプローチの方法や、献立を上げられるように考えている。本校では夏と冬の年2回、まち☆ベジ給食を実施している。冬のまち☆ベジ給食では給食委員の5年生がまち☆ベジレンジャーになり、その活動が新聞に取り上げられた。地域に情報発信できて良かった。

**委員：**本校はレシピコンテストに参加した。レシピを自分で考える生徒も、親と一緒に考える生徒もいた。

その他の取り組みについてだが、家庭科の授業でお弁当の献立を立てた。夏休みには実際に調理した。調理では、保護者も協力することによって、保護者の関心も高められた。また、お弁当は授業で発表しあった。

**委員：**本校はお弁当ではなく、給食の献立を生徒に考えさせた。実際に生徒が考えたメニューを給食に取り入れ、「〇〇さんの作ったメニュー」として紹介した。

**委員長：**子どもたちの家庭での取り組みについて、保護者としての考えや、PTAが行った内容を教えてほしい。

**委員：**今年度は軒並みPTAの行事が中止になった。子どもの小学校では、3年生の農業体験は講義のみだった。

給食は校内放送無しで、一方向を向いた黙食になったため、子どもは「美味しく感じない」と言っていた。

**委員：**前回、PTA主催の料理教室ができれば良いと話したが、実施できなかった。各中学校でも、調理実習を行えず、食育になかなか取り組めていない。自分の子どもはレシピコンテストにも参加していない様子だった。

子どもの中学校では、全学年を対象に食育アンケートを実施した。リモートワーク等で、家族一緒に食事をする時間が若干増えてきたと感じた。

他校では、子ども食堂を運営する学校がある。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため飲食ができず、小麦を栽培してパンを作る活動を行っている様子。

**委員長：**給食が黙食になり、子どもたちのストレスになっている部分があるが、その代わりに家族で食べる機会が多くなっている。コロナの終息が見えない中、「どう楽しむか」に方向転換していく必要があると思う。

幼稚園の取り組み状況はいかがか。

**委員：**当園では米作りをして、年長がおむすびにして食べている。小さな面積で田植えから精米まで行っている。今年は栄養士が米ぬかクッキーを作った。白米以外に米ぬかも食べられることを学んだ。

その他に、年長がお泊り保育の代わりにマスのつかみ取りを行った。マスは炭火で焼いて、みんなで食べた。「おいしい」と、骨まで全部食べた子もいた。

**委員：**大学は授業がリモートになり、あまり食育が行えなかった。調理実習はフェイスシールド、マスク、手袋をつけて行い、試食は10人ずつの3部屋に分けて、黙食している。

**委員：**地域活動は体験型のものが多いため、7月のイベントを最後に全く活動できていない。

男性料理教室は、高齢者の参加が多い。閉じこもり防止の目的も含めて行ってきたが、基礎疾患を持っている方が多いため開催できていない。感染者数が落ち着いて開催できる状況になったら、バッククッキング教室を開催したい。試食を含まないデモンストレーションのみの料理教室なども検討していきたい。

**委員：**商工会としての活動はできていない。SDGsに向けて取り組まれている中で、外食の動向を見ると、食品残渣が徐々に減ってきていると感じる。

先ほど子どもたちのお弁当や魚の話があったが、まずお弁当の中身が和食だったことに驚いた。自分たちの食文化を大事にしようと考え、家庭で子どもたちに教えているのだと感じた。

**委員：**前年認定されたまちだ名産品の試食会ができなかった。しかし、名産品の販売は伸びており、名産品に触れる機会は増えている様子。

イベントとしては、飲食店が店を開けられないということで、弁当販売会を地元企業と共に行った。市内の和菓子屋で、和菓子作り体験も行った。

**事務局：**本日欠席の委員から、所属の保育園での取り組みについて、資料をいただいているため紹介したい。

園で芋煮の調理体験を行った。成長過程によって役割を決め、3歳児クラスが玉ねぎの皮をむき、4歳児クラスがピーラーで野菜の皮をむき、5歳児クラスが包丁で野菜を切った。切った野菜は厨房の栄養士に渡し、最後は園庭のかまどで煮た。とてもおいしくて、子供たちはおかわりをしていた。

**委員長：**市内の食育実施状況について、事務局から説明願いたい。

**事務局：**市内で行った食育について説明する。

先ほど話に上った朝食レシピコンテストだが、小学校は6年生が対象で、夏休みの任意の課題という形で行った。

テーマは「パワーチャージ！元気になる野菜を使った朝の一品」。レシピの条件は3つあり、①一般的に手に入りやすい食材を利用し、30分以内に準備から片付けまでできること、②主食でもおかずでもよいので朝食に食べる一品であること、③町田で取れる旬の野菜の活用方法について考えられた料理であることだった。審査基準は①小学生に必要な栄養素に配慮された料理であるか、②小学生が食べてみたくなる美味しさへの工夫があるか、③オリジナリティーがあるか、の3つだった。

中学校の朝食レシピコンテストは、夏休みの家庭科の課題として行った。テーマは「パワーチャージ！元気になる朝ごはん」。レシピの条件は小学校と同じく3つあり、①一般的に手に入りやすい食材を利用し、30分以内に準備から片付けまでできる料理であること、②食べる人やレシピテーマについてよく考え、工夫をこらした料理であること、③町田で穫れる旬の野菜の活用方法について考えられた料理であることだった。審査基準も同じく3つあり、①中学生に必要な栄養素に配慮された料理であるか、②中学生が食べてみたくなる美味しさへの工夫があるか、③オリジナリティーがあるかだった。表彰式は小・中学校共に3月1日に行い、レシピ集の発行も予定している。

<さんあーる広場>10月2日に町田シバヒロで開催した。リデュース、リユース、リサイクルの3Rを身近に感じることができるようイベントを行った。イベント内容は、ごみ収集車「みえるくん」展示やリサイクル広場の出展、フードドライブなどである。町田市食育ボランティアも参加し、野菜の流通に関する展示や捨てがちなへたや皮を活用したレシピの紹介を行った。

<町田市農業祭>11月13日と14日に町田シバヒロで開催した。市民と農業者の交流により都市農業への理解を深め、地産地消の促進を図ることを目的に開催した。市内農産物で作る野菜宝舟や花で作るまち☆ベジマークの展示、農産物即売会、農産物品評会が行われた。

<食育講演会>「まだ知られていない魅力満載！カレーライスがもっとおいしくなる秘密～町田産野菜を取り入れて～」というタイトルで行った。実施目的は、野菜摂取量の増加と町田産野菜の普及、食育への関心に繋げることであり、元NHKアナウンサーの内藤 裕子さんを講師に迎えて、YouTube 配信の形式で実施した。

<食育ツーリズム>10月3日に開催した。町田の食や農業生産者とふれる機会を増やし、食に対する感謝の心を育むことを目的とした。小・中学生とその保護者23名が参加した。FC町田ゼルビア等と連携して実施しており、あした農場における人参や枝豆等の収穫体験、農家による講話、最後にサッカー観戦を行った。

<まちだ食育カレンダー、SNS「まちだ食のわ」>まちだ食育カレンダーは、町田市食育リーフレットと町田市ホームページに掲載した。本取り組みは、行事食や町田市の食のイベントを共有し、町田市が一体となって食育を推進することを目指している。

SNS は若い世代をターゲットとし、食に関する情報を発信することで、望ましい食生活の実践を促すことを目的としている。発信内容はレシピの紹介や食に関するイベントのお知らせ等である。

**委員長**：食育カレンダーは委員の取組も載せられると良い。何を実施したか載せることで、町田市の食育が見える化できる。それにより情報共有ができ、いくつかの団体が連携するような広がりもみられると思う。事務局が提案してきた際には、ぜひご協力をお願いしたい。

#### 4 事務連絡

**事務局**：①次期委員選出依頼について  
②謝礼の振り込みについて

#### 5 閉会

以上